

## 新発田市 令和5年度 第10回定例記者会見

1 日 時 令和6年1月10日(水)午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた503会議室

3 内 容

### 【市長発表項目】

#### ○AI チャットボットによる子育て支援開始

「子育てするならやっぱり新発田」を標榜する本市として、デジタルネイティブ世代の子育て支援として導入するサービスをPRしたい。

#### ○全国各地のオリジナル雑煮が大集結！

冬の風物詩として開催するイベントについて、4年振りにメインストリートも会場に加えて実施することを周知したい。

#### ○展示会・商談会(食の見本市)初開催！！

主幹産業の一つである食品製造事業者と販売事業者のビジネスチャンスの拡大を図る取組を周知したい。

#### ○まちづくりドラフト会議 for youth(新発田市内探究学習成果発表会)開催

若者がまちの課題解決を図ることで、地域への愛着心醸成や人材育成を期する取組についてPRしたい。

#### ○菅谷不動尊の千日参り節分会

新発田の年中行事の一つとして菅谷不動尊で開催される、「鬼は外」とは言わない特徴的な節分会を紹介したい。

### 【その他】

○学校給食週間で新発田牛等の地場産食材が提供されます！

## あいさつ

- 時候の挨拶からすれば、あけましておめでとうございますということなのでしょうが、そんな言葉を言っているのかわからないような、そんな新しい年の幕開けになりました。何も元旦にという残念な気持ちではありますが、改めて被害に遭われた地域の皆さん方に対しては心からお見舞いを申し上げますとともに、私どもはおかげさまでさしたる被害もございませんでしたので、しっかりとした支援体制、お手伝いをしていきたいと思っております。
- 災害早々に広域消防への要請がございましたので、派遣をさせていただきまし、新潟市からの要請で、給水車をピストン輸送しました。現在、新潟市へ倒壊のおそれがあるかどうかの判定をする建築課職員と被害判定をする税務課職員、それから石川県羽咋市に下水道課の技術職員を派遣しております。もしかすると、1月末頃まで、第2班、第3班と派遣要請の延長があるのではないかと考えておりますが、現在は第1班だけを派遣しています。それから、被害に遭われた方で新発田市へ避難されたいということであれば、公営住宅を6部屋用意しておりますので、皆さん方から報道していただければ、選んでもらえるのではないかと考えております。
- いずれにせよ、大変なことでありますが、いつかわが身に返ってくるということもあるわけで、今度は私どもが助けていただくためにも、やっぱり困ったときの友が真の友ということですので、精一杯、行政を挙げてお手伝いをしているという状況であります。

**それでは、会見項目を説明いたします。**

**最初に、AI チャットボットによる子育て支援についてです。**

- 「休日に子どもの熱が出てしまった。」「明日だけ、子どもを預かってほしい。」といった、子育て世帯の皆様の困りごとなどに、24時間365日いつでもAIが対話形式で答える「新発田市子育てAIチャットボット」の運用を、12月27日から開始いたしました。
- 年中無休のサービスですので、育児や仕事の合間など、皆様のライフスタイルに合わせて気軽にご利用いただけます。お手元の資料にQRコードがありますので、そちらをスマートフォンで読み取れば、すぐに入ることができます。
- システムの特徴として、子育てに不安や悩み、孤独感などを抱える方々に寄り添い、心が通い合うようなワンポイントメッセージを添えて情報を発信しており、県内でも類を見ないAIチャットボットとなっております。
- 対象分野は子育て支援全般であり、生活にお困りの子育て世帯へのご案内などにもしっかりと対応いたします。加えて、外国籍の方にもご利用いただけるよう、2月からは英語翻訳機能を搭載できるよう準備を進めております。
- 皆様からいただく質問をもとにAIが学習することで、回答の精度が高まっていくシステムでありますので、多くの皆様にご利用いただき、AIそのものを市民の皆様と一緒に成長させていきたいと考えております。
- デジタルネイティブ世代の皆様が子育てする時代となり、このようなシステムの導入は時代の潮流であります。「子育てするならやっぱり新発田」と胸を張れるよう、これからも子育て世帯の方々に寄り添い、身近なサポート役となれるよう、必要なサービスを提供してまいりたいと考えております。

## 次に、第 20 回城下町しばた全国雑煮合戦についてです。

- 14日（日）に、新発田の冬の風物詩である「城下町しばた全国雑煮合戦」が開催されます。
- オリジナル雑煮を擁する約40店舗が集結し、優勝雑煮である「征夷大將軍」を決定します。各店舗が工夫を凝らしたオリジナル雑煮が1杯500円から楽しめます。出店は、市内はもちろんのこと、県内各地をはじめ、富山県・山梨県からの参加も予定されています。
- プレ雑煮合戦として昨年11月に初めて開催した「収穫祭 with 蔵春閣」では、しばた雑煮の振る舞いが行われ、こどもから大人まで世代を問わず好評でありました。
- 今年は実に4年ぶりにメインストリート商店街に雑煮合戦が戻ってきます。商店街の皆様とともに、しばた雑煮をはじめとした全国各地の自慢の雑煮や、合戦の熱気を一緒に楽しんでいただき、身も心も満たしていただけると幸いです。
- また、雑煮を食べて参加できるガラポンなど、お子さんも楽しめるイベントが盛りだくさんですので、皆様のご来場をお待ちしております。
- なお、当日は会場周辺が大変混雑いたしますので、舟入にありますコメリパワー新発田店の臨時駐車場から出発するシャトルバスを用意しております。公共交通機関をご利用いただくと大変ありがたく思います。

## 次に、食の見本市の開催についてです。

- 新発田オリジナルの展示会・商談会を今年度、初開催いたします。
- 開催の目的は、当市の主幹産業の一つである食品製造事業者と販売事業者とのマッチングを支援し、双方のビジネスチャンスの拡大を図り、将来にわたり継続的な取引関係に繋げることであります。
- また、製造事業者同士、販売事業者同士の交流の場にもなり、その後における共同開発や協力関係の構築も期待しているところです。
- 食品製造業においては、既存商品の出品はもちろんのこと、新商品のお披露目の場としても活用していただければと思います。
- 毎年開催している「しばた大物産展」を、今年度は2月16日（金）から2月25日（日）の10日間に渡っての開催を予定しており、この物産展への出品に繋がればとも思っております。

次に、まちづくりドラフト会議<sup>フォー ユース</sup>fou Youthの開催についてです。

- 市内の高校や大学に通う若者たちを対象に、「商店街」や「SDGs」といった地域や身の回りの課題について具体的な解決策を考え、自ら提案する「まちづくりドラフト会議 for Youth」発表会を今年度も2月5日(月)に市民文化会館 大ホールにて開催します。
- 本発表会は、若者の目線や価値観で「こんなまちになったらもっと良くなる」、「自分たちならこんなことができる」といった提案を発表する場としており、参加された学生や聴講された方々からも好評をいただいております。
- 今年度は市内の各高校が主体となる「まちづくりドラフト会議 for Youth(新発田市内探究学習成果発表会)」としました。これまでの行政課題への提案に加え、学校独自の自由課題も対象としており、昨年までのドラフト会議をさらにバージョンアップさせた発表会となります。御協力いただいた各校、とりわけ、幹事校を引き受けてくださった新発田南高校さんにはこの場を借りて感謝申し上げます。
- 学生たちは、授業や放課後の時間を活用して、事業所訪問を行い、校内発表会で提案のブラッシュアップを図るなど、発表に向けて積極的に活動されていると聞いております。
- 発表テーマは、「地球温暖化防止」、「食の循環によるまちづくりの啓発」といった行政課題に加え、学校独自の課題も予定されており、大胆な提案を楽しみにしております。報道機関の皆様にもぜひご覧いただき、新発田の若者たちのエネルギーを感じる機会にしていきたいと思います。

## 最後に、菅谷不動尊の千日参り節分会についてです。

- 私の地元でもある菅谷不動尊で2月3日(土)に「千日参り節分会」が開催されます。この日にお参りすると、「千日お参りしたのと同じ功德がある。」ということから名付けられたそうです。
- この節分会では、「福は内」とは言いますが「鬼は外」とは言いません。これは、各家庭から追い出された鬼が、行くところがないので、菅谷のお不動様に来てもらい、来た鬼に対して不動明王の力をもって改心させ、まっとうな人間になって社会に返すという意味から来ているそうです。
- それほど力を持つ菅谷不動尊ではありますが、長い歴史と由緒も持ち合わせております。遠く源平の時代、源頼朝の叔父に当たる護念上人が平家の圧力から逃れるため、この御本尊を背負って全国を行脚した道中で、菅谷の地に何か不思議な「縁」を感じて堂宇を置いたというのが、このお寺の始まりであります。
- この「縁」という言葉も、もともとは仏教用語で、すべての物事には「縁」と呼ばれる原因があるという考え方だそうです。是非この節分会に多くの皆様にお出でいただき、今年一年の福を呼び込む、良い縁結びの場にしてもらえるとありがたいと思います。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。